

平成30年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等

【東北地区】

研究大会開催日：平成30年7月5日（木）6日（金） 八戸市

研究主題 新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

研究副主題 郷土に誇りを持ち、未来を主体的に拓く
たくましい子どもの育成を目指す学校経営と校長の在り方

成
果

- ◎シンポジウムや分科会での協議を通して、地域と共に未来を切り拓く児童育成のための学校経営のあり方について考え、学び合う有意義な研修の機会となった。
- シンポジスト及びコーディネーター4名のお話は、人間としての心構えや経営・運営の手法などについて大変興味深かった。学校現場とは違う立場からではあったが、だからこそ得るものが多く、ふるさとの未来をつくる子どもたちを育てるという視点で学校経営に役立つ内容であり、ねらいに沿ったシンポジウムとなった。
- 分科会は、研究課題に沿って各県の複数年の取組の成果が発表され、大変参考になった。グループによる協議が定着していて、じっくりと話し合うことができた。また、他県の校長と共通の悩みや地域の特徴的な取組について情報交換することができ、有意義だった。

課
題

- 分科会の数を減らすことや視点を1つに絞ってはどうかという意見もあったが、全連小に合わせて構成しながら10分科会を維持し、視点についてもこれまで通り2つを維持しながら、交流が持てるよう運営を工夫していきたい。
- ホームページを開設していないので、タイムリーな情報発信ができなかった。今後、青森県でもホームページの開設を含め、情報発信の方法について検討していきたい。

運
営
の
工
夫

- ◎前年度の山形大会の運営資料や成果と課題を引き継ぎながら、コンパクトでおもてなしの心が伝わる大会運営を心がけた。単一支部だけで運営する利点を生かし、定例の校長会や理事研修会の中で、実行委員会（準備委員会）を開催することで会議の効率化を図った。
- 分科会の運営では、休憩時間をずらしての日程設定や発表グループの記録を写真に残すなど、山形大会の成果や反省を生かすことができた。
- 新幹線の駅から会場までの距離があったが、無料シャトルバスを手配することで、スムーズに移動できた。

そ
の
他

特になし

平成30年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等

【関東甲信越地区】

研究大会開催日：平成30年6月7日（木）8日（金） 長野市

研究主題 新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

研究副主題 地域の自然・文化・人々の生き方に学び 豊かな発想力・創造性や人間性を身に付け 自ら未来社会を拓いていく子どもの育成

成果

- ・長野県小学校長会の総力を挙げ、明日からの学校運営に生きる方策を、参加者の方々に少しでも多く持ち帰っていただくとの思いで取り組んだ。特に分散会では、事前より周到な準備をした熟議を通して、各都県の実践研究に学び、校長として果たすべき役割や指導性について深い研究協議が行われ、充実した会となった。
- ・記念講演会では、JAXAシニアフェロー、ISAS宇宙飛翔工学研究系教授の川口淳一郎氏から「やれる理由こそが着想を生む『はやぶさ式思考法』」と題し、困難なプロジェクトを完遂する過程にこそ力を注ぐべきであり、そこにリーダーシップ発揮の価値があるというお話は、校長として学ぶべきことが多かった。

課題

- ・全体会場（長野市芸術館）がやや狭いこともあり、動線の確保について苦慮した。受付をスムーズに行うために、入り口では飲み物の配布のみを行い、大会資料は座席に置いたが、資料が無かったと言う方が何人かいた。資料が確実に渡せるような配布方法を再考したい。
- ・開会式開始前に放映した映像が、リハーサルを行ったPCと当日の会場の機器とが合わず、またPCのスペック不足で不都合がありうまく映らなかった。確認が必要であった。

運営上の評価

- ・全体としては大会に至るまでに何回か係細案の検討を長野上水内小学校長会で行い、会場の下見も重ねたので、見通しを持って活動をすることができた。
- ・各分散会場とは、事前の下見を含めて打ち合わせを行うとともに、機器担当の業者の方が各会場を回っていただき、支障なく運営ができた。
- ・分散会では、運営責任者が司会者と連携を取って時間管理を行い、スムーズな運営ができた。また、熟議の時間を多く取れるように、レポート発表については、要点のみの発表とした。
- ・トイレの確保や動線については、混乱を予想して全体会場では事前よりリハーサルを行い、準備を進めたため、受付時も休憩時のトイレ誘導もスムーズに行えた。

その他

- ・二日間に渡る研究協議会に900名を超える校長先生方にご参会いただき大変充実した会となりました。また、本大会を支えてくださった関係機関の皆様方に心より感謝申し上げます。

平成30年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等

【東海・北陸地区】

研究大会開催日：平成30年10月18日（木）19日（金） 津市

研究主題 新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

研究副主題 夢の実現に向けて主体的・協働的に学び、共に未来を切り拓こうとする子どもを育む学校経営の推進

成果

- 「自立する力」「共に生きる力」「生き抜いていく力」をキーワードに副主題を設定し、校長の果たすべき役割と指導性を究明した。
- 大会趣旨で述べた「変化の激しい社会の中で、子どもたちが夢や希望をもち未来に向かう意欲と自信にあふれた輝きをもてる教育の在り方を求めるため『自立する力』『共に生きる力』『生き抜いていく力』を育む学校づくりについて、いかに校長がリーダーシップを発揮していくか」について様々な視点から考え合うことができた。
- 論議の中心となったキーワードは、「学校と家庭・地域との連携」「カリキュラムの工夫」「教職員の研修・人材育成」「学校経営方針の明確化」「学校間連携」「教職員の意識改革」「学力向上や授業改善」であった。討議の中でもその部分について各県の実態や課題・実践していることを交流・協議し、考え合うことが出来た。

課題

- 研究のさらなる深まりを求めて
分科会時間配分(提案発表30分、協議15分)の発表時間を減らし、協議やグループ討議の時間に充ててはどうか。特に、グループ討議の時間は、協議の深まりとともに、校長としての資質が磨かれる貴重な時間だと思われる。ぜひ、三重大会の日程を踏まえて、さらに学び合える日程にしていきたいものである。
- 本年度は、豪雨や地震、台風等の自然災害が発生した。今回の三重大会では、大会開催前に各県事務局を中心に連絡を取り合い、自然災害等発生時の対応案が示された。今後も異常気象等で大会の通常開催が危ぶまれるケースが想定されるため、中止や縮小開催を含め、対応策を事前に地区理事会等で十分話し合っておきたい。

運営上の工夫

- 本大会から、提案発表を3本から2本にし、協議の時間が確保でき、各領域での議論が深まり、さらに、日々の学校経営についてレポートの提案を窓口として、各県の状況も参考にしながら交流協議を深めることができた。
- 司会者に「討議の柱立て」や「細かな柱立て」が徹底され、全体協議やグループ討議をスムーズに行うことが出来た。
- 津駅と大会会場との間にシャトルバスを運行させ、アクセスに配慮した。

その他

- 提案発表を3本から2本にしたことに伴い、原稿を1ページから4ページに増やしたことで写真や図表を入れることができ、さらにオールカラーとしたことで分かりやすくなった。また、このことで、参加分科会以外の提案についても理解しやすくなった。
- 講師「三代目 林家菊丸さん」の記念講演が大変好評であった。
「3つの気(気を入れる・気を働かせる・気を読む)」は、子ども・保護者・地域住民を相手とする私たち教員にとっても、たいへん大切なことである。(アンケートより)

平成30年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等

【近畿地区】

研究大会開催日：平成30年7月31日（火） 神戸市

研究主題 新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

研究副主題 “ふるさと・絆・支え合い” 夢をもち未来を拓くたくましい子どももの育成

成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・研究会全体としての評価は高く、今後もこの日程で行うことが妥当。 ・参加者が意欲を高くもち、自己を研鑽する良い機会となった。 ・講演会が示唆に富んだ内容で、今後の教育について繋げて聞き入り、考える会員が多く出た。 ・分科会協議題に対して関心が高く、充実した討議が行えた。 ・分科会が充実した会員相互の情報交換及び交流の場となった。 ・参加会員のストレスを最小限に抑えた大会を運営ができた。
--------	---

課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・大会全体の運営・全体会をできるだけ簡素化する。 ・大会規模・内容の精選等をどの時期にどのように見直していくか、 ・1日開催なので各分科会のまとめを全体で交流できない。
--------	--

運 営 上 の 工 夫	<ul style="list-style-type: none"> ・最寄駅から会場までの案内は立て看板のみにし、できるだけ少人数で運営できるようにした。 ・移動時間を短縮するために全大会で分科会ごとに座席を指定し、パワーポイントで示し、説明及び移動時間を最小限に抑えるようにした。 ・弁当は、昼食の会場に用意し、配布から回収、ごみの処理まで業者に一括して依頼し、運営担当者が関わらなくてもよいようにした。 ・分科会会場で使用するパソコンとモニターを業者に一括して依頼。予め発表データを提出してもらい、使用するパソコンに入れ、動作確認をし、提案者は、当日バックアップデータのみ持参すればよいようにした。 ・手荷物が少なくなるように手提げ袋を用意し、大会報告書と大会宣言（案）、各種パンフレットは最小限に削減し、他に希望者が自由に持ち帰れるようにテーブル置きにした。
----------------------------	--

そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> ・各地区の大会運営の方法や工夫について情報交換し合って、更なる充実・合理化を図りたい。 ・会場までのアクセスが良く、混雑・混乱がなかった。 ・全体会を予定通りに進めることができ、昼食・分科会の時間をゆったり進めることができた。 ・大きな会場のため、室温のコントロールが十分にできなかった。
-------------	---

平成30年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等

【中国地区】

研究大会開催日：平成30年11月9日（金） 出雲市

研究主題 新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

研究副主題 未来に向け 地域とともに 主体的・協働的に新たな価値を創造する子供を育てる学校経営の推進

成果

- 記念講演講師は出雲市出身の若手会社経営者で、講演内容は「経営」に視点をおいたものだった。そのため、学校経営に関わる多くの示唆をいただくことができ、参加者からも好評だった。
- 分科会では、大会副主題のキーワードを視点にしてグループ協議を行ったので、大会の趣旨に沿った充実した協議ができた。

課題

- 大会の趣旨に沿った分科会の協議ができるよう、分科会打合せ時にグループ協議の進行の仕方について共通理解する時間を今後も確保していく。
- 効率的な運営ができたと思うが、午前中に休憩時間を設けるなどの時間配分を考えていく必要がある。

運営上の工夫

- 全体会場から少し離れた分科会場における分科会数を少なくし、移動人数を最小限にとどめた。また、悪天候も予想されたので、全体会場と離れた分科会会場とを結ぶシャトルバスを運行し、ゆとりある運営ができるようにした。
- 午前の部終了後の弁当の受け渡しがスムーズに行われるよう、放送とスクリーン字幕による移動案内をした。特に、提案発表者等の分科会関係者は優先して案内し、昼食をとりながら行う分科会打合せが時刻通りに始まるようにした。
- 大会1か月前に、島根県小学校長会のホームページ上に分科会の提案発表の概要を掲載し、課題意識をもって分科会に参加できるようにした。

その他

- 外部に委託できることは積極的に予算化し、準備にかかる時間と校長の負担の軽減を図った。
- 「スムーズな運営による『ゆとりある大会』」、「温かいおもてなしによる『うるおいのある大会』」をスローガンにし、全員が共通の認識をもって運営を行った。参加者の感想から、概ね目標は達成されたと考えている。

平成30年度 地区大会運営における成果・課題・工夫等

【四国地区】

研究大会開催日：平成30年6月29日（金） 松山市

研究主題 新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進

研究副主題 未来の創り手を育む学校経営の推進

成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 四国地区では、「四国は一つ」を合言葉に、各県が相互に連携しながら研究及び実践交流を深めてきた。愛媛大会は、隔年開催になり初めての大会であり、平成28年度の高知大会（全国大会を兼ねる。）の成果を踏まえ、2年間の研究成果を持ち寄り、熱心な協議が行われた。 ○ 坊っちゃん劇場社長の越智陽一氏の講演では、地域からの舞台芸術の発信と、愛媛県内の特別支援学校の児童生徒によるミュージカルの上演など、地域や児童生徒の可能性を開く取組に大きな感銘を受けるとともに、校長として、多くの示唆を得た。 ○ 分科会では、校長のリーダーシップの発揮に焦点を当てた提案をもとに、熱心なグループ協議が行われ、校長の自覚と責任を再確認できた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 分科会では、それぞれ2本の提案発表を行ったが、発表が小規模校だけの場合もあり、協議をより深めるためにも、学校規模について考慮する必要がある。 ○ 学校の取組について提案発表、協議するのではなく、校長がどの場面でどのように指導性を発揮したかなど、校長のリーダーシップにより焦点を当てていきたい。
運営上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「おもてなしの心」が伝わる大会運営に心がけた。全体会場と分科会場を一つの建物内にして、参加者の負担を軽減した。 ○ 参加者全員に、大会資料が入る手提げバックを用意した。大会後も使用できるように、不織布でジッパー付きの丈夫なものにしたので、参加者に好評であった。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ○ 隔年開催の初年度の大会であり、愛媛大会の課題と成果を踏まえ、今後の隔年開催の大会がより充実するよう、研究の進め方、大会の運営について検討していきたい。